

実践的大規模災害対応講習(第4回)

～身近で起こる大規模災害に対して～

2月8日(火)から2月10日(木)までの3日間、実践的大規模災害対応講習(第4回)を開催し、県内14消防本部から17人が参加しました。

本講習では、切迫性が指摘されている南海トラフ地震や首都直下地震、風水害、土砂災害等の自然災害を始め、大規模イベント等のテロ災害対策など、さまざまな大規模災害における対応能力の向上を図ることを目的としています。

(担当教官から)

今年度、熱海市伊豆山地区において大規模な土石流災害が発生し、初めて緊急消防援助隊受援県となったことから、今回の講習は大規模災害における緊急消防援助隊及び県内応援受援に関する内容を重点的に学ぶカリキュラムとしました。

講習では、まずはじめに熱海市消防本部消防長から発災当時の様子や受援対応など大変貴重な講義をいただきました。学生達はこの講義を受け、身近で発生する大規模災害に対し、受援する側の対応や難しさを知り、その後の緊急消防援助隊や県内応援受援等の講義を真剣に受けていました。

すべての講義がリモートとなり、実践的な訓練はできませんでしたが、各所属において引き続き災害対応の向上に努め、今後発生が危惧される大規模災害等に備えていただきたいと思います。

教務課主査 中村 一二三(静岡市消防局から派遣)

予防査察・危険物科(第6期) ～人命救助の最前線～

3月2日(水)から3月18日(金)までの実質13日間、専科教育予防査察・危険物科を開催し、県内15消防本部から40人が参加しました。本課程は火災予防・危険物業務において更なる専門性の向上や充実・拡大を目的に、平成28年度に「予防査察科」と「危険物科」を発展的に統合しました。到達目標は査察・危険物行政の現状と課題の理解、予防関係法令の習得、違反対象物に対する是正指導ができること。また、危険物業務に関する専門的な知識を習得することです。そのために、県内外から予防業務に専従している消防職員や予防行政の有識者、危険物化学の大学教授など、予防業務のスペシャリストを講師に招き、幅広く専門的な教育を実施しました。

(担当教官から)

コロナの感染状況を鑑みて、リモート講義(実習等の二日間は登校)となりましたが、学生の皆さんは新たな時代の変化に柔軟に対応し、前向きに取り組んでいました。人命救助の最前線は「予防」であり、予防業務により救える命はたくさんあります。

修了生の皆さん! 今回の専科教育で得た知識、技術及び同期の絆で、予防業務の魅力・重要性を発信し、「予防」を盛り上げていきましょう!

教務課主査 竹ノ内 創(駿東伊豆消防本部から派遣)



リモート講義の様子



別カメラを用いてライブ配信



対面講義(登校日)

消大レポート 消防大学校幹部科(第68期)

令和4年1月6日~2月24日



危険物火災対応訓練



ホットトレーニング



課題研究発表



隔離期間中のリモート講義の様子



指揮シミュレーション訓練



講義の様子



祝 卒業



幹部科第68期 59名と担当教官3名

令和4年1月6日(木)から2月24日(木)まで消防大学校幹部科(第68期)に入校させていただきました。新型コロナウイルスの第6波が拡大中にもかかわらず消防大学校に送り出していただいた静岡県消防学校、派遣元の所属、家族には感謝しています。

コロナ禍により今までの消防大学校の教育形式とは異なり、1月6日から14日までは各所属でリモート講義、1月17日から2月24日まで消防大学校に入寮となりました。入寮後も感染対策の徹底を図っていましたが、幹部科から8人の陽性者(無症状を含む。)を出してしまい、幹部科学生全員が10日間の隔離となり、リモート講義、カリキュラム変更、訓練中止などの措置が講じられました。このような状況下で、教育訓練を継続していただいた消防大学校教官、関係者には感謝の気持ちでいっぱいです。「最善を尽くしてやれることをやる!」消防大学校が実践したことです。

今回の幹部科では、幹部としての心構え、知識及び技術、更には幅広い分野の知見を吸収することができました。またコロナ禍により、新たな時代に適応する柔軟な対応力を身につけることができました。これらの経験を学校教育及び派遣元の所属に還元していきたいと思えます。

教務課主査 竹ノ内 創(駿東伊豆消防本部から派遣)

離任教官表彰状授与式

厳しい教育訓練、ありがとうございました

令和4年3月25日（金）この3月に所属消防本部へ帰任する3名の教官の「離任教官表彰状授与式」を行ないました。学校長から、県内の消防職員や消防団員等の指導育成のための尽力に対し表彰状が授与されました。また、県職員の土屋教官が定期異動で当校を離れることとなりました。

離任教官の皆様、本当にありがとうございました。県内の消防力向上のために、常に全力で、そして真摯に取り組んでいただきましたことを感謝いたします。

新天地においては、消防学校で培った技術や経験、大きな人間力を十二分に発揮し、所属の消防職員のお手本として頑張っていたいただきたいと思います。皆様の御健勝をお祈り申し上げます。



右から

森下 善弘 教官
(御前崎市消防本部から派遣)

飯塚 幸代 教官
(御殿場市・小山町広域行政組合消防本部から派遣)

中村 一二三 教官
(静岡市消防局から派遣)

土屋 裕一 教官
(県職員)

お疲れ様でした！



離任教官からのコメント

この3年間、多くの方に支えられ、とても充実した日々を過ごすことができました。自分にとって、とても勉強になりよい経験をさせていただきましたが、教官としては何も教官らしいことができず申し訳なく思っています。これからも消防学校で出会えた方との繋がりを大切にしていきたいと思っておりますので、今後もよろしくお願ひします。ありがとうございました。

教務課主査 飯塚 幸代 (御殿場市・小山町広域行政組合消防本部から派遣)

静岡県消防学校に派遣され、県職員の方々や各消防本部(局)から派遣された教官方とともに消防学校教育に携わることができ、大変感謝しています。また、多くの講師や学生と出会ったことは私の人生において大きな財産となりました。消防人生27年間のなかで、最も充実した3年間でした。気をつけ、敬礼、直れ、ありがとうございました！！

教務課主査 中村 一二三 (静岡市消防局から派遣)

着任当初は不安ばかりでしたが、多くの方々のおかげで、無事に2年間の任期を終えることができました。この間、多くの学生に出会い刺激を受け、素晴らしい仲間と共に人材育成に携わり、本当に充実した日々を過ごさせて頂きました。この貴重な経験は、私にとって「人生の宝物」です。今後はここで得た知識、技術を活かして、職務を遂行したいと思います。ありがとうございました。

教務課主査 森下 善弘 (御前崎市消防本部から派遣)

社会人になり様々な業務に携わってきましたが、これほどまでに中身の濃い3年間は初めてで、この僅かなスペースに思いを全て綴ることはできませんが、「住民の生命・身体・財産を守る」という崇高な目的のために全力で教育訓練に励む消防職員の姿から多くの刺激と感動をもらい、人間的に大きく成長できたと実感しております。ここで培った多くの財産を糧に、異動先でも精一杯業務にあたらうと思ひます。3年間ありがとうございました。

教務課主任 土屋 裕一 (県職員)

太田校長のすごくいい話 (増刊号)



2月号で、「ちょっといい話」は最終となりましたが、今月は増刊号として「すごくいい話」を記載させていただきます。

静岡県に入庁し38年間様々な分野の業務に従事し、多くの方と出会うことが出来たことにより、自分が成長できたことを改めて感謝したいと思います。

ただ、人生100年時代と言われる昨今では、後40年生きることにありますので、後ろを振り向くだけでなく、これからも前に向かって進まなければいけないと考えています。(今までの不摂生で100は無理かな?)

そこで、自分だけでなく、今年退職する方々にも向けた名言を紹介したいと思います。

「人間は夢を持ち、前へ歩き続ける限り余生はいらぬ」幕末に日本全国の測量を行った伊能忠敬の言葉です。伊能忠敬が日本地図を作成し始めたのは、隠居後の56歳からで、第8次観測の67歳までは自らの足で測量を行い、地図の作成は74歳の死の間際まで続けていたそうです。

現在のような三角測量ではなく、歩測や縄などを用いた測量で、あれだけ精密な地図が出来たのは、測量知識だけでなく、天文学や数学等様々な分野のことを学んだからこそ出来たのだと思います。

下田に赴任していた時、現在の伊豆半島の地図と伊能忠敬の地図をパソコンで重ねたものを見せていただいたことがありましたが、最新の技術で作られた地図と一致しているだけでなく色の濃淡で高低差まで表してあり、美術品としても一級品でとても驚いたことがあります。

伊能忠敬は「人生を2度生きた男」「四千万歩を歩いた男」とも言われていますが、自分もこれからも夢を持ち前へ歩いて行かなければならないと改めて感じています。

「明日死ぬかのように生きよ。永遠に生きるかのように学べ」インド独立の父マハトマ・ガンジーの言葉です。

人間の生涯は、いつ終わりを迎えるかは判らないですが、出来るだけ悔いが少ないようにしたいです。

自分は、昔から死ぬまでに1万冊の本を読めたら良いなと思っていますが、現在約8,000冊位は読んでいるはずなので、後2,000冊です。年々、読みたい本が減っているのと読むスピードが落ちていますが、出来れば、年100冊ペースに戻れたらと考えています。(高校、大学の頃は一日3冊ぐらい読めたのが懐かしい。)

本はインターネットとは違った、感動や気付きがあります。また、ネットの画像と違い、いろいろ想像できるところが本の良いところで、新型コロナが終息したら、今まで読んだ本に出て来たあっちこっちにも行きたいです。(塩野七生の本を読んでからはずっとイタリアに行きたいと考えてます)

一年間お付き合いいただきありがとうございました。

グッドバイ・エブリバディ(英語) アディオス・アミーゴ(スペイン語) アッフィーダーゼン(独語)
再見(中国語) クワヘリ(スワヒリ語)

さようなら・またどこかで(日本語)



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail:

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞご覧ください。

静岡県消防学校

検索

